

船舶事故等調査報告書

平成21年11月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009門第110号	
事故等種類	衝突	
発生日時	平成21年7月18日（土） 13時50分ごろ	
発生場所	大分県国東市大分空港東方沖 臼石鼻灯台から真方位036° 4.6海里付近（概位 北緯33° 28.2′ 東経131° 45.4′）	
事故等調査の経過	平成21年7月27日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A ケミカルタンカー ^{かいゆう} 海悠21、749トン 136533、日宝商船有限公司 B モーターボート ^{みき} 美希、5トン未満（登録長6.8m） 294-20414大分、個人所有	
乗組員等に関する情報	A 船長、四級海技士（航海） 一等航海士、五級海技士（航海） B 船長、一級小型船舶操縦士	
死傷者等	A なし B 負傷 1人（同乗者 腰椎骨折、左脇腹切創等）	
損傷	A 球状船首に擦過傷 B 左舷中央部に破口及びき裂	
事故等の経過	A船は、船長A及び一等航海士Aほか3人が乗り組み、一等航海士Aが単独で船橋当直に当たり、約12ノットの対地速力で自動操舵により南進中、B船は、船長Bほか1人が乗船し、船首を北東に向けて錨泊中、平成21年7月18日13時50分ごろ、大分空港東方沖において、A船の船首部とB船の左舷中央部とが衝突した。	
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北東、風力 2、視界 良好 海象：波高 約0.5m	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 一等航海士Aは、前方の適切な見張りを行わなかったことから、前路で錨泊中のB船に気付かなかった可能性があると考えられる。 船長Bは、釣りをすることに気を取られ、周囲の適切な見張りを行わなかったことから、接近するA船に気付かなかった可能性があると考えられる。
原因	本事故は、大分空港東方沖において、A船が南進中、B船が錨泊中、A船が前路のB船に気付かず、また、B船が接近するA船に気付かなかったため、両船が衝突したことにより発生した可能性があると考えられる。	